

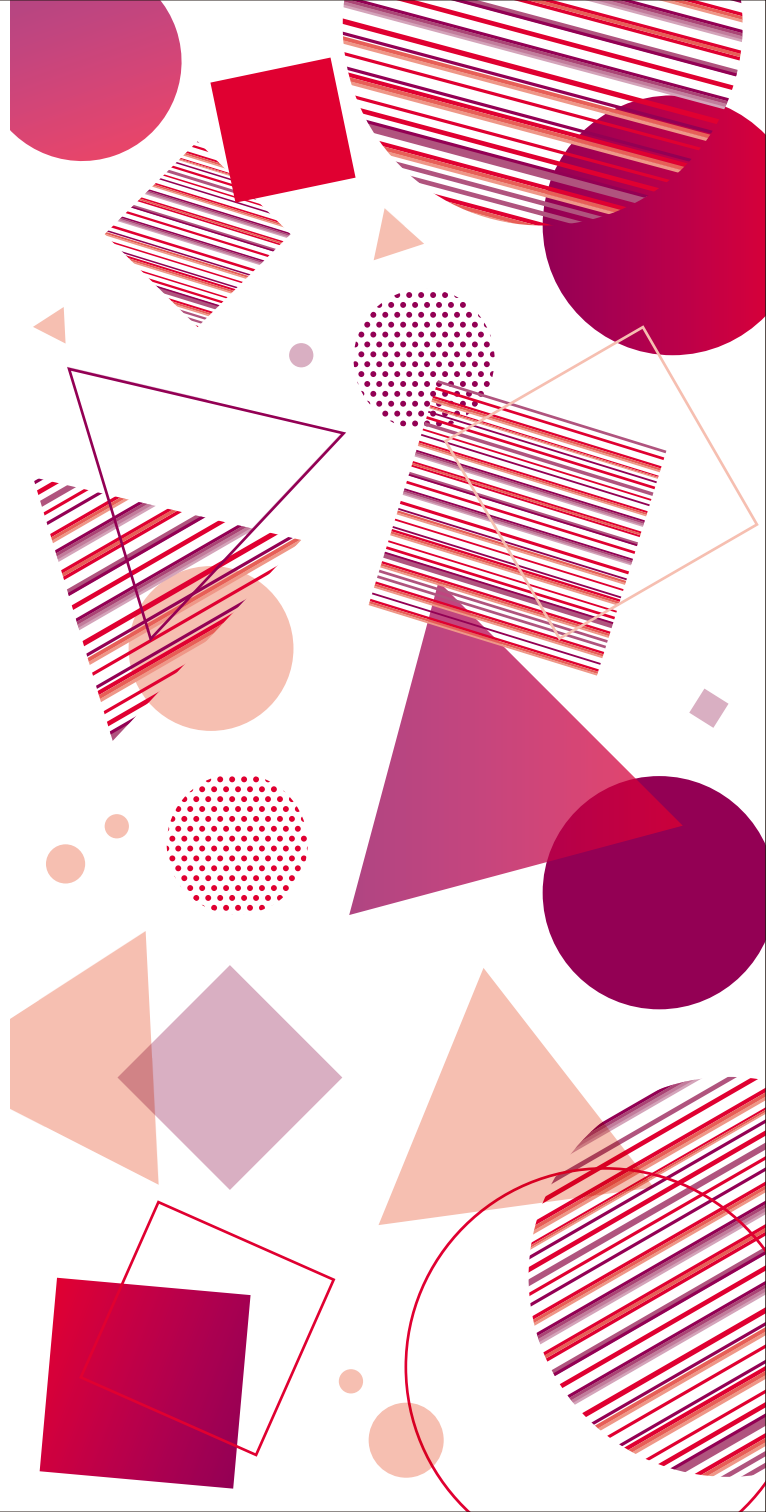
株主の皆様へ

第129期 第2四半期 事業のご報告

2023年3月1日から
2023年8月31日まで

Contents

- ・社長メッセージ
- ・中期3ヵ年経営計画
- ・決算ハイライト
- ・トピックス
- ・CSR 活動



おかげさまで創業88周年

皆様への感謝の気持ちを忘れない～

変わらぬ経営理念『秩序の上に立つ創造的繁栄』と

実践的心構え「奉仕こそ繁栄の基」



当社は1935年7月30日に井筒屋百貨店を設立以来、多くの皆様に支えられながら、地域に根ざす百貨店として長い年月を歩んでまいりました。おかげさまで本年創業88周年を迎えることとなりました。永年にわたるご支援・ご愛顧に感謝申し上げます。

これまで様々な環境にありましても、変わらぬ経営理念を貫き、常に百貨店に求められる使命を追い求めながら、皆様のご支援のもと感謝の気持ちを忘れずに経営に取り組んでまいりました。

現在当社グループは、小倉本店と山口店を旗艦店として営業するとともに、サテライト事業(ショップ)や外商活動などを行っております。

今後はDXを推進しながら、お客様との接点を大切に、永遠のテーマである「お客様の求めるサービスや商品の追求」さらには「百貨店らしさの追求」に努めてまいります。

当社井筒屋の井桁のマークは、「お客様」、「お取引先様」、「株主様」、「従業員」の交わりを意味し、四本の柱に支えられてこそ当社の繁栄があることを表しています。

全てのステークホルダーの皆様にご心より感謝申し上げます。

最後に、当社グループは地域に根ざす百貨店として、引き続き地域やお客様とのつながりを深め、豊かな未来と持続可能な社会の実現に向け貢献してまいります。

株主の皆様には倍旧のご支援・ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2023年11月

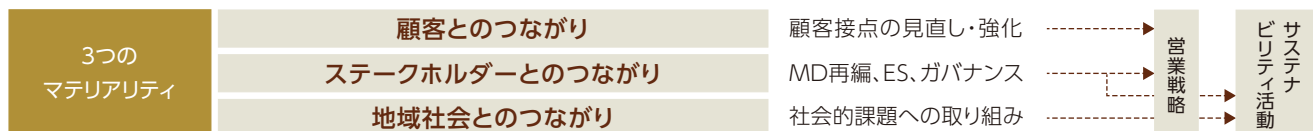
株式会社 井筒屋

代表取締役社長 影山 英雄

経営理念・グループビジョンに基づく事業戦略

経営理念	秩序の上に立つ創造的繁栄		
グループビジョン	地域小売業のリーディングカンパニーとして発展していく		
外部環境変化	新規大型商業施設の参入 (イオンアウトレット開業) 商圏内に大型商業施設が開業することで消費(お客様)と労働(従業員)の選択肢が拡大する	外部不経済の内部化 (企業価値基準の変動) 環境・人権問題など従来は外部不経済とされていたものが企業の価値や利益に影響を与える	コロナからのグレートリセット (企業価値基準の再定義) 新型コロナウイルス感染拡大により落ち込んだ状況から、より良い企業として再出発する
事業戦略	サステナビリティを基盤とした“質”の追求		

当社グループに関わる全てのステークホルダー(顧客、取引先、従業員、株主)ならびに地域社会とのつながりの“質”を深化させ、地域共創基盤として持続可能な地域社会の発展に寄与する。



当社は経営理念を「秩序の上に立つ創造的繁栄」とし、「地域小売業のリーディングカンパニーとして発展していく」というグループビジョンに向かって取り組んでおります。

当社を取り巻く大きな外部環境変化を、アウトレットの開業、環境や人権にどのように取り組んでいるかというサステナブル経営の視点の必要性、コロナ禍に対応してきたことから分かったことと捉え、このような変化に対応するために、事業戦略を「サステナビリティを基盤とした質の追求」とし、当社に関わるすべてのステークホルダー(顧客、取引先、従業員、株主)ならびに地域社会とのつながりの質を深掘りし、地域共創基盤として持続可能な地域社会の発展に寄与することを目指してまいります。

顧客接点の見直し・強化、MD再編、ES、ガバナンスという観点からステークホルダーとのつながり、社会的課題への取り組みとしてサステナビリティ活動を中心におく地域社会とのつながり、これらの「つながりの質」を深めていくことを3つのマテリアリティ(重点課題)としております。

本中計の位置づけと戦略の方向性

コロナ禍により加速・顕在化した環境変化を踏まえ、本計画は従来型の規模や量を追求する事業モデルを見直す契機と捉え、量から質への「新たな事業モデルへの道筋をつける中計」と位置づけております。

短中期

- 店舗における百貨店らしさの追求（競争優位性の確立・差別化）
自主編集運営ゾーンの刷新等による店舗価値の向上を図ってまいります。
- 効率的な店舗運営と効果的な販売促進体制の維持（収益性の維持・向上）
SNS活用等効果的な宣伝経費運用により高収益構造の維持に努めてまいります。

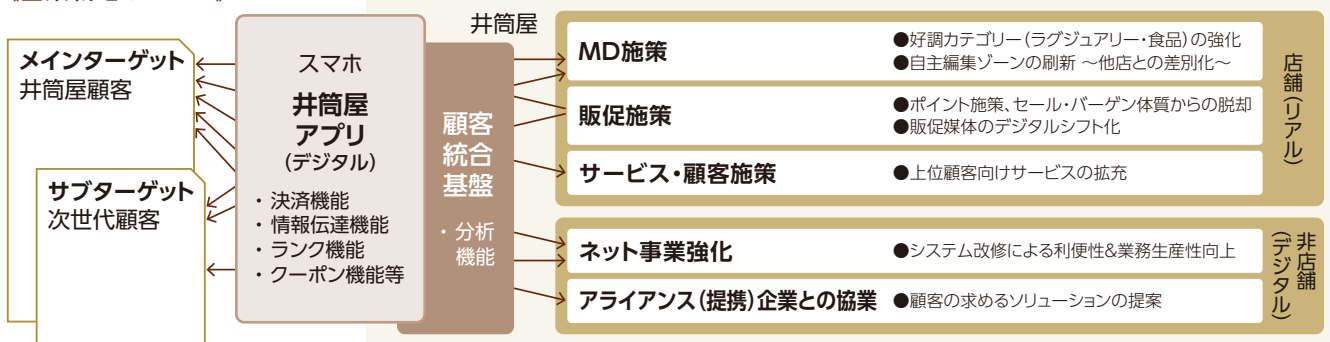
中長期

- デジタルデバイスを基軸とした顧客単価向上（顧客接点の創造）
井筒屋アプリの導入により顧客統合基盤を構築し、効率的な営業施策を推進してまいります。
- 優良顧客基盤×デジタルデバイスの活用（新たな収益基盤の確立）
将来的には、統合された顧客情報を活用し、顧客の求めるソリューションを提供してまいります。

中長期の営業戦略 リアルとデジタルの両面からお客様へ上質な人生を提案する

顧客情報を統合し諸施策に活用することで、店舗やネットショッピング等複数のチャンネルを通じて顧客ニーズへ対応していく

《営業戦略イメージ》



この3年間は中長期の戦略実現に向けた検討・準備を進める段階とし、当社が保有する資産である本店という店舗、その中のMD、百貨店らしさ、それを運営する人材、CS向上、なんといっても優良顧客と新規顧客獲得を背景に、これらを井筒屋アプリというデジタル(DX)にどのようにつなげていくか、その仕組みを構築する期間としております。

今後も中長期的な戦略実現に向けた道筋をつけ、量から質への転換による収益性の維持と更なる組織構造改革を推進し、安定的な収益基盤の確立とグループ保有資産の更なる強化を図ってまいります。

第129期 第2四半期 (2023年3月1日から2023年8月31日まで)

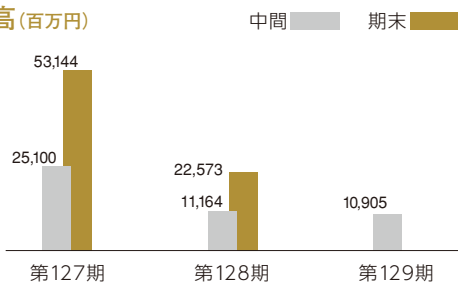
連結業績の概況

当第129期(2023年3月1日～2023年8月31日)の当社グループの業績につきましては、新型コロナウイルス感染症法上の分類が5類へ移行し、行動制限がなくなったことを受け、外出機会の増加や消費行動の回復により、お客様の来店数は回復傾向にあります。

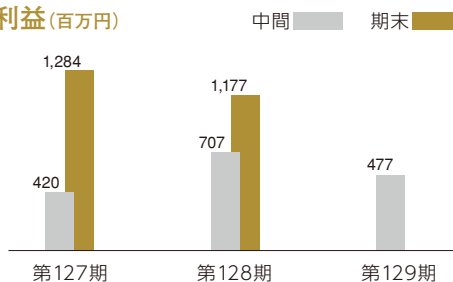
当社グループにおきましては、引き続き高額品やデイリー商材の食料品などの好調カテゴリーが牽引する中、百貨店らしさの追求、他商業施設との差別化を図るため、百貨店の強みである自主編集ゾーンの拡充や地域活性化などの取り組みを推し進めてまいりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高は10,905百万円(前年同期比97.7%)、営業利益は477百万円(前年同期比67.6%)、経常利益は463百万円(前年同期比71.7%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は460百万円(前年同期比56.7%)となりましたが、利益につきましては、効率的な店舗運営と効果的な販売促進により、2024年2月期の目標数値(中期3ヵ年経営計画)達成に向け順調に推移いたしております。

売上高(百万円)

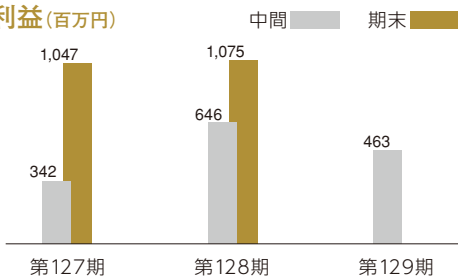


営業利益(百万円)



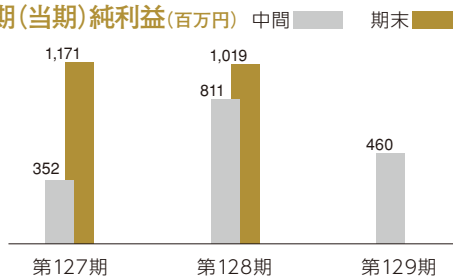
※第128期以降の売上高減少は、2022年3月の期首から「収益認識に関する会計基準」等を適用したためであります。

経常利益(百万円)



親会社株主に帰属する

四半期(当期)純利益(百万円)



〈自主編集ショップ〉本館7階 子供服フロア(サステナベース)

地産地消やグルテンフリーにこだわった食品、使われなくなったおもちゃを回収して原料にした時計、エアバッグやシートベルトをアップサイクルしたバッグ、植物由来のスキンケアなど、サステナブルな商品をセレクトしたショップがオープンいたしました。環境に配慮した商品等の販売や情報発信、ワークショップ、企業とのコラボレーションイベントを通じて、百貨店ならではのサステナブルライフを提案しております。



〈自主編集ショップ〉新館5階 紳士服フロア(ディファレンス)



DIFFERENCE

気軽にオーダーメイドが楽しめるメンズ&レディースオーダースーツ専門ショップ「ディファレンス」がオープンいたしました。

〈イベント〉市制60周年記念「きたきゅうフェスティバル」



北九州市の市制60周年を記念して、本館8階・新館1階にて「きたきゅうフェスティバル」が開催されました。地元ハンドメイド作家の作品など北九州市に関連する商品が一堂に会する催事となりました。

〈催事〉「全国うまいもの大会」「北海道物産展」



2023年3月には「全国うまいもの大会」、4月には恒例の「北海道物産展」を開催いたしました。入場制限緩和や試食再開の影響等もあり、多くのお客様で賑わいました。

〈サテライトショップ〉飯塚ショップ



飯塚ショップが2023年7月に「ゆめタウン飯塚」1階に移転オープンいたしました。地域のお客様とのつながりを大切にしたい店づくりに努めてまいります。

CSR活動基本方針

井筒屋グループは、「秩序の上に立つ創造的繁栄」を経営理念とし、CSR活動を経営の重要課題として位置づけ、地域小売業のリーディングカンパニーとして発展していくことを目指しています。私たちはESGの視点から、E：環境保全に関する活動、S：地域社会での貢献活動、G：ガバナンスの強化をそれぞれ積極的に推進し、将来にわたって持続的に取り組み、企業価値の向上に努めます。

CSR活動を推進するにあたり、下記のとおりサステナビリティ基本方針ならびにESGそれぞれの方向性や重点課題を定め、「地域共創」により持続可能な社会の実現に向け取り組んでまいります。

サステナビリティ基本方針

私たちは、店舗周辺の河川や公園などの公共空間を活かした「環境共生型百貨店」を、地域と共に創出してまいります。この「地域共創」により、かかわりのあるすべての人々の豊かな未来と持続可能な社会の実現に向け、役割を果たしてまいります。

井筒屋グループESGについて

サステナビリティ重点課題 (ESG×SDGs)

ESG視点	方向性	重点課題	SDGs(目標)
E(環境)	環境保全と経済成長の両立による 企業価値の向上と事業基盤の強化	脱炭素社会の実現	
		サステナブルライフの推進	
		サプライチェーン・マネジメント	
S(社会)	地域社会との共創によるまちづくりへの参画	地域活性化・賑わい創出	
		ワークライフバランスの充実	
	働きやすい職場環境の整備や 多様な人材が活躍できる機会の創出	ダイバーシティ&インクルージョン	
G(ガバナンス)	コーポレートガバナンスの遵守	ガバナンス体制構築とリスクマネジメント	

井筒屋グループとして取り組んでいる主なサステナブル活動をご紹介します。

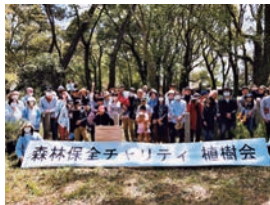
【北九州市制60周年×井筒屋創業88周年】共同企画 コラボトートバッグの発売

北九州市制60周年と井筒屋創業88周年を記念し、コラボトートバッグを制作しました。北九州に根付くさまざまな文化を、現代の多彩なクリエイターたちの感性や発想を反映した「ニュー北九州シティ」プロジェクトにおいて、そのキービジュアルであるイラストレーターのShiho Soさんが描いたイラストをトートバッグにいたしました。なお、販売収益は「北九州市SDGs未来基金」に全額寄付し、地域とともに持続可能な社会の実現に向け貢献してまいります。



森林保全チャリティ植樹会の開催

昨年のクリスマス期間中、「京築のヒノキと暮らすプロジェクト」と連携協働して井筒屋オリジナルクリスマスオーナメントを制作販売いたしました。今回2年目となるこの販売は、収益金の一部を活用し、環境保全活動への支援につなげるものです。今回は、ご応募いただいた63名のお客様とともに植樹会を開催いたしました。また、同プロジェクトの一環として、親子で参加いただく「夏休み親子木育講座」を当社にて開催いたしました。良質な県産木材である京築ヒノキを使用した椅子づくりを行い、森林資源の新たな利用方法を提案いたしました。



「紫川流域一斉清掃」に参加

井筒屋では、紫川流域で「河川愛護活動」や「まちづくり」などに取り組んでいる各団体と交流を深めることで、河川環境の向上と賑わいのある地域づくりを推進するために、「紫川流域会議」に参画し活動しています。本年は北九州市制60周年を祝したイベントが多数行われることや北九州市に訪れる国内外の来街者に対し、おもてなしの心で清掃活動を実施いたしました。



■ information 当社ホームページにさまざまなコンテンツを掲載しております。

第2四半期
決算情報



中期3ヵ年
経営計画



サステナビリティ
レポート



株主優待制度
のご案内



株主メモ



株式会社 井筒屋

〒802-8511

北九州市小倉北区船場町1番1号